

新基地建設反対名護共同センターニュース

オスプレイパッド建設強行で高江緊迫 県内外から座り込みに参加を！



N1のオスプレイ離着陸帯建設のために、座り込む市民をごぼう抜きで排除し（写真下）北部訓練場のメインゲートから資材を搬入している（写真上）。報道ではオスプレイパッドの着工を22日にも踏み切る方針を固めています。いよいよ高江のたたかいは正念場です。



を変えたいと安倍政権は大量の機動隊を動員しヘリパッド建設を強行しようとしています。さらに、女性殺人事件後の対策として全国の防衛局職員で構成する対米兵パトロール員60人を、不当にも辺野古と高江の市民の抗議活動の「警備要員」に充てることも明らかにされました。安倍内閣による基地建設の展望もありません。絶対に許すことはできません。高江は緊急事態です。県内外から多くの方が、オスプレイパッド建設阻止へ座り込みに参加するなど物心両面のご支援をお願いします。



東村村議（共産党）
伊佐真次

県議選に次ぐ参院選でオール沖縄の大勝利で安倍内閣は追い詰められています。何とかその世論

なんと！対米兵パトロール員60人が
辺野古、高江で市民の抗議行動を「監視」
追い詰められた安倍政権の暴走

77%「騒音気になる」オスプレイ「怖い」38%

東村全小中調査(15日琉球新報から)

琉球大の教授が今年4月に東村内の全小中学校の児童・生徒のアンケートを行った。

遊んでいるときや授業中、飛行機やヘリコプターの騒音が気になると回答した児童・生徒が77%に上がったことが明らかになったオスプレイの音を聞いて怖いと思ったり、嫌な気持ちになったりは、「よくある」「ある」が38%で、約4割が航空機騒音でストレスを感じながら勉強していることが分かった。

「未来つくる私たちが選挙や政治に関心持つべき」 センターやたたかいの現場で学んだ本土学生の感想から

中国地方の学生さんたち13人が7月11日、新基地建設反対名護共同センターで学習。以下の感想文を寄せてくれました。一部紹介します。

●石破さんが「平成の琉球処分」の当事者とは知りませんでした。沖縄の豊かな生物や自然が奪われているということがよく分かった。沖縄の現状を学んだ私たちが本土でも一人でも多く伝えていきたいと思った。

●沖縄の問題ではなく、日本の問題であるし、人間としての問題だと感じた。政治とのたたかいと聞いて、それを選ぶのは私たちなのでもっと勉強していかなければいけない、何よりも無知が一番怖いと思いました。

●ジュゴンの生息地に基地を造ろうとしている。また絶滅危惧種のノグチゲラを森から追い出した政府に非常に怒りを覚えた。沖縄に来なければ知ることのできないことがたくさんある。いかにしてそれを大和の人々に伝えるか。それを私たちがしなければいけない。

●オール沖縄のたたかいのすごさに圧倒された。日本全体が米軍の支配下だと思った。大浦湾の美しい自然を人間の都合で壊してはならない。

●選挙に行かなくても自分には利益も損もないと思っていたが、未来をつくっていくのは私たち。選挙や政治に関心を持つことが重要だと思った。



大学生の皆さんはフィールドワークで、辺野古ゲート前や高江のたたかいの現場を目の当たりにし、涙を流すほどのカルチャーショック。それぞれ沖縄問題や政治の現状を自分のこととして受け止めて沖縄を後にしました。